

【大阪の歴史散歩】

安井道頓・道トと道頓堀

地下鉄日本橋を下車し、堺筋に沿って道頓堀川に架かる日本橋を渡る、この橋は高麗橋と共に、江戸時代幕府の公儀橋として南詰に高札所があった。『安井道頓・道ト紀功碑』はこの橋の北東角に大坂城の残念石を使って建てられている。この地は道トが慶長19年(1614)幕府から拝領した私邸跡で、江戸時代は子孫が居住し、南組の惣年寄をつとめた。

安井家は足利氏の支流渋川家の子孫で、安井市左衛門成安は応仁の乱で久宝寺城を死守したといわれている。安井道頓は豊臣秀吉の大坂城築城の功を奉り、その功で下賜された梅津川一帯を慶長17年木津川への運河として開削したが、着工してすぐ大坂夏・冬の陣(1614~15)が始まり、1615年豊臣方についた道頓は戦死した。その後、意志を継いだ安井道トが完成させた。この工事に際しては道トの一族の天文・暦学者安井算哲らの助力もあり、当時としては最高の土木技術を駆使したものであった。

大坂落城後、城主となった松平忠明は道頓の功をたたえ、堀を『道頓堀』と名付けた。また道トを惣年寄に任じ、道頓堀沿岸から島之内一帯の開発を許可した。これらが現在の道頓堀北岸の宗右衛門町、南岸の浪花五座の賑いとなっている。宗右衛門町はこの辺りの工事を監督した山口屋宗右衛門に、道頓堀川に架かる太左衛門橋は若衆歌舞伎の座元大坂太左衛門に由来する。

ちなみに浪花五座は戎座(現浪花座)、中座、角座、朝日座、弁天座(現在はなくなり、第2次大戦後松竹座が加わった)であった。

また、堺筋は明治・大正期には大阪のメインストリートであり、三越・白木屋・高島屋・松坂屋の百貨店や、金融・商社が軒を連ねていた。しかし、昭和8年(1933)地下鉄御堂筋線が開通すると繁栄の中心は御堂筋へ移行していった。

この辺りはONSA事務所から約20分の逍遙の距離であります。協会にお見えの際は、この辺に足を伸ばし、古き良き大阪を見直して下さい。

